

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業（受託試験）〕  
馬込三寸ニンジンの春まき栽培における播種日が栽培日数に及ぼす影響

海保富士男・沼尻勝人・遠藤拓弥・木下沙也佳  
(園芸技術科)

【要 約】「馬込三寸ニンジン」の春まき栽培における播種から収穫までの栽培日数は、根部の形状とくに根部のつまりの状況から判断して、2月下旬播種で140日以上、3月上旬～4月上旬播種で125～140日、4月中旬以降の播種で125日日程度となる。

【目 的】

「馬込三寸ニンジン」の栽培マニュアルを作成するため、昨年、春まき栽培で3月上～下旬、5月播種で検討し、3月下旬播種が120日以上、5月上旬が110日程度で根部がつまり、収穫期に達することがわかった。そこで、本年度は、さらに早い2月下旬と以後4月までの播種について播種日が根部の生育と栽培日数に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

「馬込三寸ニンジン」を2019年2月21日から4月19日まで2週間ごとに70cm幅ベッドに条間15cm間隔の4条ですじまきした。5葉期に株間9cmに間引いて栽培した。成分量でN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:17:12 kg/10aを全量基肥として施用した。播種後日数、概ね125, 140, 155日に収穫し、根重や根径などの生育を調査した。

【成果の概要】

1. 収穫期の目安となる根の形状は、2月21日播種では播種後125日の根先端部のつまりが不十分で、140日でややよくなり、155日でよくなった(図1)。3月8日、22日、4月4日播種では125日の根先端部のつまりがやや不十分で、その後140日でよくなった。4月19日播種では、125日の根先端部のつまりが十分よく、収穫期に達していた。
2. 根重は、2月21日と3月8日播種では、播種後140日まで根重は増加し、それ以後増加しなかった。3月22日播種では、播種後125から155日まで根重は増加しつづけた。4月4日、19日播種では、播種後125日において根重が2～3月播種より大きかったが、4月4日播種では播種後125日以後で根重が増加しなかった。
3. 根長は、播種後125日で見ると2月21日播種が12cm、3月8日～4月19日播種で11cm前後となり、2月21日播種で根長がやや大きくなった。しかし、いずれの播種日においても、生育日数が増えても根長は変化せず、ほぼ一定であった(データ略称)。
4. 根径は、播種日が遅い区ほど根径が大きくなる傾向があった(表2)。2月21日、3月8日、22日播種では播種後120日から140日まで増加したが、4月4日播種では、根径は播種後125日以後に増加しなかった。
5. 昨年も問題となった裂根は、2月21日、3月8日、4月19日播種で多く、3月22日と4月4日播種で少なかった(表3)。抽台は、ほとんど発生しなかった(データ略)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 昨年度の結果と合わせて、春まき栽培における播種から収穫までの栽培日数が明らかになった。夏まき栽培と合わせて栽培歴を作り、栽培マニュアルを完成させる。

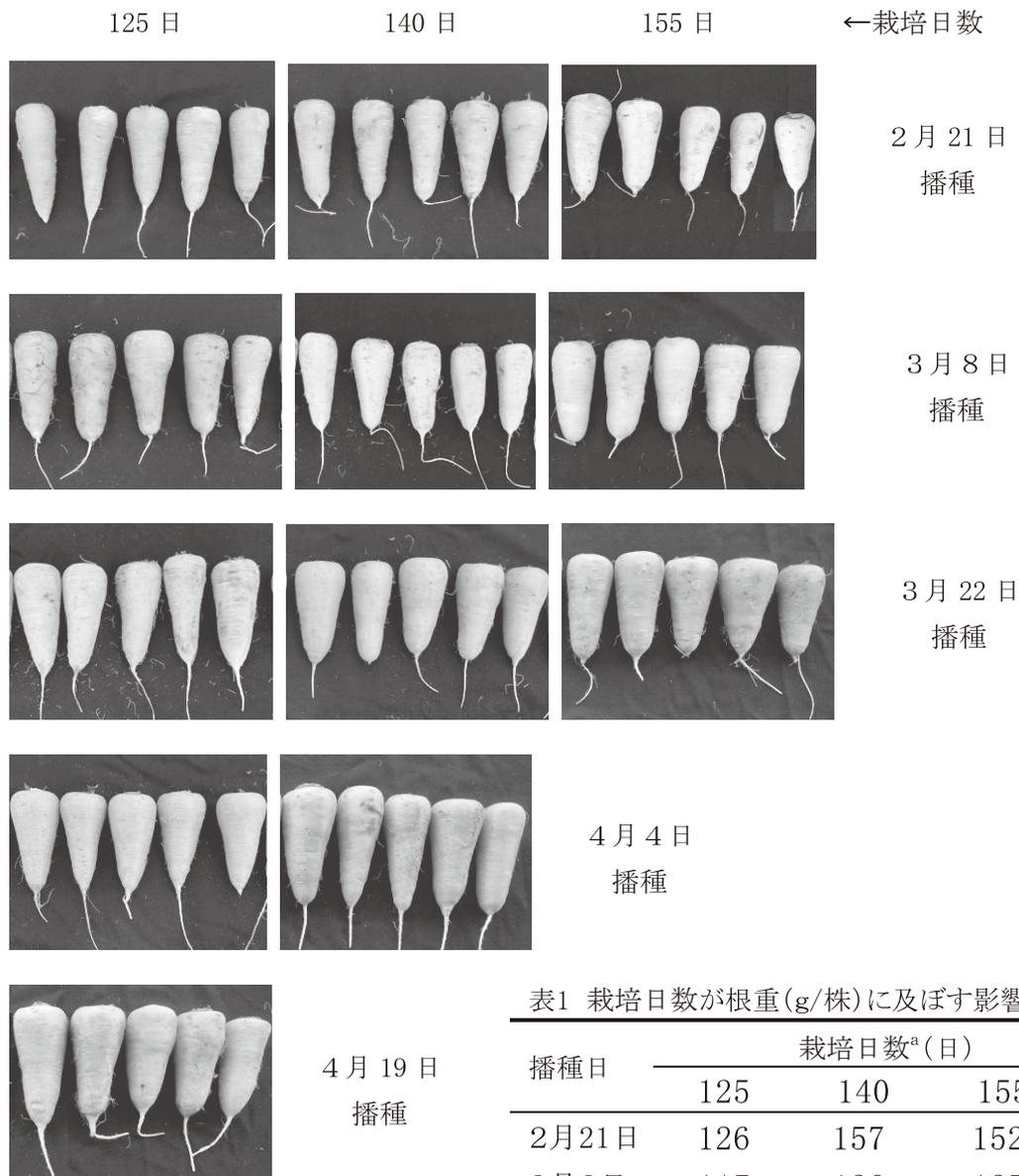


図1 栽培日数が根部形状に及ぼす影響

a) 播種後収穫までの日数

表1 栽培日数が根重(g/株)に及ぼす影響

播種日	栽培日数 <sup>a</sup> (日)		
	125	140	155
2月21日	126	157	152
3月8日	117	126	125
3月22日	115	142	166
4月4日	134	132	—
4月19日	138	—	—

a) 播種後収穫までの日数

表2 栽培日数が根径(mm)に及ぼす影響

播種日	栽培日数 <sup>a</sup> (日)		
	125	140	155
2月21日	43.1	50.6	51.6
3月8日	46.2	48.9	49.9
3月22日	47.0	52.3	54.2
4月4日	52.8	49.5	—
4月19日	50.9	—	—

根径は肩から3cmの部位の直径

a) 播種後収穫までの日数

表3 播種日ごとの裂根率

播種日	裂根率 <sup>a</sup> (%)
2月21日	20.7
3月8日	25.3
3月22日	8.6
4月4日	4.3
4月19日	17.9

a) 裂根本数/全収穫本数